

## I 新技術の解説

### (1) 要 旨

#### ○ね ら い

モニリア病唯一の一次感染源である菌核の経年的子実体形成能力を知り、樹園地の菌密度予測の精度を高める。

#### ○経過と方法

1991年及び'92年に発病した幼果を自然条件下に放置して菌核化させ、3冬経過後まで毎年菌核の発芽状況を調査した。

#### ○技術の要旨

- ① 発病一冬経過後の菌核は発芽率が年次によって大きく異なり、発芽率の高低と菌核当たりの子実体形成数に比較的關係が見られた。
- ② 一冬経過後発芽しなかった菌核でも、二冬経過後1992年では1.7%、1993年では17.2%発芽し、伝染源になることが明らかになった。
- ③ 一冬経過後発芽した菌核のうち、二冬経過後発芽した菌核は1992年が29.3%、1993年4.0%認められた。
- ④ 発病後三冬経過した菌核は全て子実体形成能力を失っていた。

### (2) もたらされる効果

前年及び前々年の幼果発病（実ぐされ）量を把握することにより、樹園地の菌密度を推定することができる。

### (3) 普及対象範囲

全県（リンゴ）

### (4) 普及上の留意事項

過去2年の実ぐされ発生の多少及び気象予報から、モニリア病保護防除回数、防除時期、使用する薬剤を決定する。

### (5) 発表文献等

北日本病害虫研究会報 第46号（投稿中）

## II 具体的なデータ等

表-1 1 冬経過後のリンゴモニリア病菌核の発芽状況

発病年	調査年・月・日	調査菌核数	菌核発芽率	子実体数 / 発芽菌核
1991	'92・4・10 ～4・24	335	13.8%	2.60
1992	'93・4・17 ～5・11	437	75.2	4.12

表-2 2 冬経過後のリンゴモニリア病菌核の発芽状況

菌核の由来	調査年・月・日	調査菌核数	菌核発芽率	子実体数 / 発芽菌核
'92年発芽菌核	'93・4・22	61	29.3%	2.72
'92年不発芽菌核	〃	235	1.7	1.50
'93年発芽菌核	'94・4・23	100	4.0	1.00
'93年不発芽菌核	〃	64	17.2	1.82

表-3 3 冬経過後のリンゴモニリア病菌核の発芽状況

菌核の由来		調査菌核数	菌核発芽率
'92年発芽	'93年発芽	16	0%
'92年発芽	'93年不発芽	4	0
'92年不発芽	'93年発芽	42	0
'92年不発芽	'93年不発芽	39	0

調査年月日 1994年4月23日

発行年月	9506	キーワード	159
基礎分類	35	キーワード	
作目名	35	キーワード	